

猿橋  
小学校

瑛玖良

瑛玖良校は明治期における猿橋小の旧名。切磋琢磨の意が込められている。

## 化学物質過敏症について考える

校長 澁谷 一男

先月の個別懇談会の折、ある保護者の方から、給食着に関する御意見をいただいた。合成洗剤等のニオイなどに過敏な子どももいるので、給食着の使い回しについては、一考が必要なのではないか、という御意見だった。



「化学物質過敏症」を御存じだろうか。電車の中で強い香りのする人に近付くだけで、気分が悪くなる。隣家から流れてくる柔軟剤のニオイで窓も開けられない。制汗剤や除菌スプレーなどのニオイが苦しくて学校や職場に通えない…。このように、香り付き製品のニオイによって体調を崩す人、化学物質過敏症を発症する人が、10年ほど前から増え続けているという。消臭・除菌ブームや香りブームに伴い、近年、人工的に強い香りを添加した柔軟剤・合成洗剤等が多く製造されるようになった。最近では、香りをより長持ちさせるために、マイクロカプセルを使用した製品のテレビCMも毎日のように目にする。これらの製品によって健康被害を訴える人がいる。

私の友人も、ある日突然、化学物質過敏症を発症した。ニオイによる頭痛、喉の痛み、せき、吐き気などの症状は、徐々に悪化していった。仕事にも行けなくなった。同居していた娘も、一緒に生活できないと家を出て行った。

発症の原因は、まだ解明されておらず、治療法もないという。症状が出た場合は、反応する物質のない場所で、症状が治まるまで待つしかないのだそうだ。また、微量なニオイでも症状が出ることもあるのだが、「気のせい」「神経質」「我慢が足りない」などと誤解されることも少なくないという。

身近な友人の発症により、化学物質過敏症は、私にとって他人事ではなくなった。誰もが突然発症する可能性があること、更に、子どもたちへの影響を考えると、問題はかなり深刻なのではないか。

ユニバーサルデザイン(※)の考え方と同様に、感覚が過敏な人が安心して生活できる環境は、全ての人にとって良い環境と言えるはずだ。子どもたちにとって安心して安全な未来のために、真剣に考えたい問題の一つである。

冒頭の給食着の使い回しについてである。直ちに個人持ちにするのは難しいが、これら共用の物については、合成洗剤や柔軟剤を使わずに洗濯するという事なら、各家庭ですぐにでも取り組みそうである。

※ユニバーサルデザイン：障がいの有無、年齢、性別、人種等に関わらず、多様な人々が利用しやすいよう生活環境などをデザインする考え方。